

知っていますか？結核が現代の病気だってコト

9月24日～30日は結核予防週間です！

結核予防週間とは

毎年9月24日から9月30日を「結核予防週間」と定めて、結核に関する正しい知識の普及啓発を図ることとしています。

日本の結核の現状は、2021年には11,519人の患者が発生し、1,845人が死亡しています。患者数は減少傾向であるものの、今なお日本の重大な感染症の一つです。

茨城県においては、2021年に221人の方が罹患し、治療を受けています。最近では既感染者の高齢化に伴う発生事例の増加、抗結核薬の効かない多剤耐性結核菌の出現に加え、つくば保健所管内においては外国生まれの患者の発生が多くあり、憂慮すべき状況にあります。



結核予防週間普及啓発ポスター

全結核罹患率推移(人口10万対)



結核とは？どのような症状が出るの？

結核は、結核菌によって主に肺に炎症が起こる病気です。結核菌が咳やくしゃみと一緒に空気中に飛び散り、それを周りの人が直接吸い込むことによって感染します。

結核に感染しても、必ず発病するわけではなく、通常は免疫力が結核菌の増殖を押さえ込みます。

結核の初期症状は以下のような風邪に似た症状がみられます。

- 咳が2週間以上続く
- 微熱が続く
- 痰が出る（痰に血が混ざる）
- 体がだるい



複十字シール運動キャラクター
「シールぼうやとシールちゃん」

年に1回は健康診断を受けましょう。赤ちゃんにはBCG接種を！

自分自身の健康を守ることはもちろんのこと、家族や友人などへの感染を防ぐためにも、早期発見・早期治療が重要です。定期的に健診を受け、上記のような症状が長く続く場合は、必ず受診しましょう。結核は薬をきちんと飲めば治ります。

赤ちゃんの予防には、生後5か月から8か月のBCG接種が推奨されています。

【結核に関する相談・お問い合わせ】 茨城県つくば保健所 保健指導課 ☎ 029-860-6002